

2004年10月24日発行
 日本聖公会東京教区
 港区芝公園3 6 18
 編集人 英 久子

：9月20日(月・休日)立教大学ツッカーホールで二〇〇四年度東京教区フェスティバル《合同礼拝》がささげられた。壇上にはエルサレム教区から来日された四人の聖職を交えて多数の聖職者が居並ぶなか、同教区のリア主教を説教者に……。師父からは、平和の実現へ向けた熱い思いが語られ、聴衆七五〇人の胸中を燃え立たせた。本号ではその熱い語らいを特集し、教区史に刻み残すことにした。

(紙幅の関係で一部を割愛)

教区フェスティバル説教

和解

リア・アブ・エルアザル主教

(エルサレム・中東聖公会主教)

これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちをご自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。

(IIコリント5章18節)

教会の中にあり、なおかつ、教会の外に対するもつとも素晴らしい賜物のひとつに、クリスチャン同志の交わりがあります。それは、共に歩むという行為であり、手をつなぎ、声を一つにしてゆく、という行為であり、また、お互いに持っているものを分かち合うという行為でもあります。誰にとっても同じことですが、その交わりに入れないで、孤立したり、無視されたり、あるいは脇に押しやられるといったことがおきる時、それは見殺しにされるのと同じような苦痛となります。

アラブのパレスチナ人キリスト者としての長い間の私たちの歴史においては、それはほとんど二千年に及びますが、私たち

は皆さんの友情と祈りによるサポートとキリストにおける兄弟としての愛と配慮を熱望しています。皆さんに、私たちのところを訪ねて来ていただきたいと思っておりますし、私たちは、皆さんが今までにしてくださったサポートを感謝しています。私たちは、皆さんが祝福されるように、そして皆さんの存在そのものが祝福であるようにと祈っています。

有名なロシアの作家、トルストイは、ある日物乞いの男が自分の方に近づいてくるのに気がつきました。その頃の多くの作家がそうであったように、彼は自分のポケットを探ったけれども、そこには何もありません。その男の方にふりむいて、トルストイは言いました。「わるいな、兄弟。もし何かあなたの助けになるものを持っていたなら、あげられるのに」。すると、その男はにっこりと笑ってトルストイに向ってこう言ったのです。「いいえ、あなたは、私の考えていたものよりよっぽど素晴らしいものを呉れましたよ。あなたは「今、私を『兄弟』と呼びました」。

あなたは、わたしたちをあなたの兄弟姉妹として受け入れますか？

今日の説教の題は、「和解」です。今や白日の太陽の下、「平和」や「シャローム」という言葉を使いながら、実際にそう行われているのは、イスラエル中探しても、どこにもありません。私たちは、「シャローム」と言ってお互いに挨拶します。シャロームという名前を貰った子どもがいます。また、テル・アビブの高層アパートにシャロームという名前がつくことがあります。しかし、実際には本当の意味のシャロームはほとんどありません。この言葉は、すっかり面目を失ってしまい、間違っ使用れ、また、悪用さえされています。まさに神が詩篇の中で語っておられる通りです。「平和をこそ、わたしは語るのに 彼らはただ、戦いを語る」(詩編一二〇篇七節)。

一九九六年のクリスマス

パーティーの席上で、イスラエルのネタニヤフ首相は「私は平和を成し遂げて、世界中の皮肉屋をがっかりさせてみせる」と豪語しました。私は、その言葉に添えて、ナザレのイエスが何と言ったか彼に思い起こしてしてほしいと願い、「平和を実現する人々は、幸いである」と言いました。おー、神よ！あなたが平和を語る人々は幸いである」と仰らなかつたことに感謝します！「平和を実現する人々は神の子どもたちと呼ばれます」と仰っておられます。平和を実現して行きましょう！

ただ単に、「平和について語るの、もうやめましょう。もし皆さんが、神さまの子どもとして受け入れられたいのなら、平和について説教だけするのもやめましょう。

和解とは何なのか？
和解とは行動であって、説教ではありません。私たちが行うべき努めであって、お題

目ではありません。和解は、産み出され、そして実体となつていくべき良い知らせなのです。

冒頭、私たちは、「神は、キリストによって世をご自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉を私たちに委ねられたのです」とコリントの信徒への手紙を読みました。

「新しい年、新しいいのち」

(一) 二年一月号エビスコバル・ライフ「アメリカ聖公会新聞」(訳者注)という題の総裁主教フランク・グリズワルト師による年頭の挨拶で、彼は、「ところで、いつたいたのようなミニストリー(奉仕職)に、私たちは招かれているのだろうか？ それは、どんなところにあつたとしても、不信と憎しみの大きな壁を叩き壊すことではないだろうか。ことにそれが、文化や民族、また国籍や宗教の違いによって引き起こされたもの、経済格差の開きによって作り上げられたものであつた場合、ことにそれは、私たち

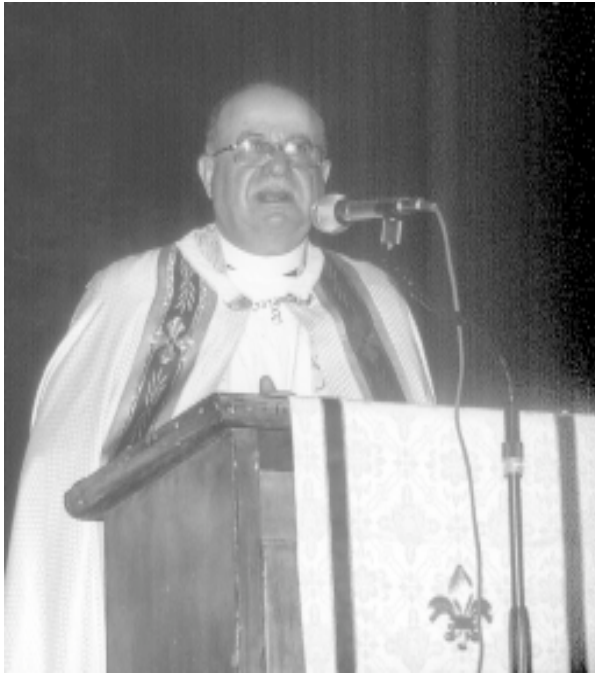
の仕事なのではないだろうか。和解するとは、正しい関係を築くことであり、私たちの関係を仕切り直すことなのではないだろうか」と書いています。

(中略)

では、どこで、どのようにして、そしていつ？

私の親しい友人が、その地方のお役所から「平和賞」を受けることになった時、彼が私に書いて寄越した文章の中に、「対立していることを無視して、平和や和解の道を探すことは、私には全く理解できないことである」というくだりがありました。

私たちは、対立のあるところに平和を実現することはできるのです。私たちは、対立と憎しみの渦巻くその場に身を置いた時に、はじめて他の人々と和解できるのです。常識のある人なら誰もわかるように、お互いに向き合っている仲間をそのまま放つてお



説教台に立つリア主教
「和解は勇気を必要とし…」

いて、友だちの中に平和を実現することはできません。愛し合っているもの同士には、彼らを和解させるための私たちの助けというものは必要ありません。しかも、何かに関わるといことは、テレビのリモコンを操作するように、離れたところからコントロールするというわけにはいきません。誰でもそこに実際に行けば、ピクニックに行くような気楽な心構えで取り組めな

いことは、おのずと知ることになります。私たちが住んでいる中東地域であれ、私が想像するに、皆さんが住んでいる場所でも、対立のない場所などどこにもないでしょう。もちろん状況はいろいろでしょう。でも、家庭の中の対立は政治的対立に比べてたいしたことじゃない、とは言えません。何が不十分なのか、という問いに応えるならば、本気にな

ることと、関わりの中での忍耐力が足りないことだと私は答えます。

和解は、平和の果実である

真正正銘の平和は、単に戦闘状態でないことでも、憎み合うのを一時中断することでもありません。また、征服や抑圧によって静まり返っている状態をさす言葉でもありません。

真正正銘の平和は、正義が存在し機能することです。それは、戦争を引き起こす全ての要因がもはや存在しなくなり、癒しがみんなを和解へと導く、そんな関係に入ることです。平和と和解が本物になり持続するためには、正義が行われなければなりません。不正によって傷つけられてきた人々の、尊厳をはじめとしたもろもろの人権が取り戻されなければなりません。

「平和の地」は、中東では和解の出発点でした。イスラエル人が、彼らの所有物でない

ものを引き渡してくれる時と場所には平和が存在し得るのです。つまり、国連の合意のもとにある占領下の地では、調和が存在し得るのです。「占領」、それは、私の見解では全ての痛みと受難、また、私たちの国における安全管理の不足の根源的な原因となつているものであります。皆さんの国が占領下に置かれていたり、めっちゃめっちゃに壊された家や人間の体の部分が散らばっている中で、あなたは平和と安全を楽しむことはできないでしょう。私たちを分離してしまふ中垣は、和解への道を強固にすることは決してありませんが、私たちをつなぐ掛け橋だけが、それを可能にします。防衛は、前提条件ではありません。それは結果です。もつとも安全な境界線(国境)を完備することとは、壁を築くことではなく、和解した隣人がそこにいることです。安全のために隔ての中垣を作るのではなく、掛け橋を作ることで、それが私たちクリスチャンの務めなのです。

和解は、私たちを悪魔に
対する戦いへと誘いま
す、いかにして？

ある時、偉大なるインドの
マハトマ・ガンジーはこう言
いました。「この世における
悪の力や不正と戦うことを拒
むのは、私たちの人間性に降
伏してしまうことだ。悪の実
行者によって武力を帯びて、
悪の力と戦うことは、あなた
の人間性に従事することだ。
神の武器を帯びて、悪の力や
不正、抑圧と戦うことは、神
の業に従事することだ」と。
私たちも、神の武器によって
戦いましょう！

和解は、勇気を必要とし、
単に許すだけでなく、忘れる
ことも要求するものです。

最後に、それは誰の役割
ですか？

平和を実現することは、世
界の政治家たちだけの業務で
はありません。自分たちの考
える政治的・経済的な興味や利



礼拝を終えて固い握手を交わし合う
リア主教と植田教区主教

益を、保障したり守ったりす
るための、新たな秩序を設置
したい人の役割でもありませ
ん。その役割は、私たちのも
のです。神の子どもになると
いうことを信じている皆さん
と私たちの仕事です。聖パウ
ロの言葉がそれを語っていま
す。「神は、キリストによって
世を自分と和解させ…(和
解の言葉を)私たちに委ねら
れた」のです。誰か他の人
に、ではないのです。

その仕事は、全面的なか
かりが必要ですが、非
常に犠牲も大きい

養鶏場の鶏と養豚場のブタ
が、ある時一緒に逃げ出し
て、大きな街の中心地にやつ
て来ました。鶏は、「美味しい
卵とベーコンをお安く提供し
ます」というスーパリーのチラ
シを見て、ブタに言いまし
た。「これ見てよ。私たちは、

この人間どもを食べさせるの
に本当に貢献してるのに、
ちつとも感謝されないじゃな
いか！」
すると、ブタは言いまし
た。「いやあ、そう言うのは簡
単だね。もつともあなた
がたは寄贈していればいいだ
ろうが、ぼくらの場合は、全
面的な献身だからね。」
私たちは、全面的な献身を
する用意ができていますか？
元カントベリー大主教、ケイ
リー師の好んで用いた祈り
を、一緒に祈りましょう。

主イエス・キリストよ、木
材と釘をもって細工された十
字架を通じて、人類に救いを
もたらしたナザレの大工職人
よ、あなたのこの仕事場で、
あなたの道具で十分に細工し
てください。そうすれば、あ
なたのもとにある私たちも、
粗いけれど少しは仕事をする
ことができるでしょう。あな
たの心のままにものを作り
上げることができますように
よって、アーメン。